

明治以降の劇作家が新たな演劇を求め、何に挑んだかを探る。
全8回の〈研修〉と2日間の〈リーディング&シンポジウム〉開催!!

曾我廼家五郎

Goro Soganoya (1877年—1948年)

喜劇俳優、劇作家。本名和田久一。岸和田生まれ生まれ。歌舞伎役者・中村珊瑚郎の門下で珊之助として活動していたが、鶴屋団十郎の俄に刺激を受けて、1904年大阪浪花座で十郎とともに曾我廼家劇団を旗揚げ。作・演出、さらに自ら出演するスタイルで人気を集め、数多くの喜劇作品を上演し、戯曲も遺した。

益田太郎冠者

Tarokaja Masuda (1875年—1953年)

明治・昭和時代の実業家、劇作家。東京出身。三井物産の創始者・益田孝の長男。台湾製糖の専務となり、帝劇・森永製菓などの役員を兼務した。一方、1904年ごろから太郎冠者の名で戯曲を執筆する。帝国劇場の発足に伴い帝劇女優劇に喜劇を執筆。「コロッケの歌」の作詞・作曲や落語「宗論」の作でも知られる。



北沢タウンホール

東京都世田谷区北沢2-8-18
小田急線・井の頭線
「下北沢」南口より徒歩4分

未生文庫

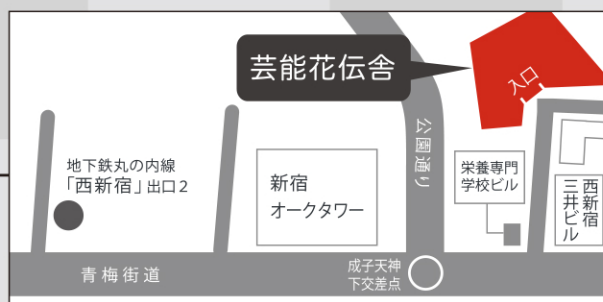
JR・東京メトロ
「駒込」駅徒歩約5分
東京都豊島区駒込3-3-4



《会場地図》

芸能花伝舎

東京メトロ丸ノ内線
「西新宿」出口2より徒歩7分
新宿区西新宿6-12-30



シンポジウムパネラー

● 8月15日(土) 星野 高 (近代日本演劇史研究)

近代日本演劇史・比較演劇史研究。早稲田大学演劇博物館招聘研究員。主な論文:「帝劇の時代〈ヴァラエティ・シアター〉としての大正期帝国劇場」(『商業演劇の光芒』(森話社、2014)所収)、「タイフーン再考」(『西洋比較演劇研究』第8号、2010)、「帝劇の〈ミュージカル・コメディ〉」(『演劇研究センター紀要VIII』、2007)。編著:「“益田太郎冠者喜劇”の大正図録」(早稲田大学演劇博物館、2014)。

● 8月16日(日) 日比野啓 (演劇史・演劇理論)

成蹊大学文学部准教授。アメリカ演劇(ことにミュージカル・レビュー)の調査研究を行う一方で「日本近代演劇デジタル・オーラル・ヒストリー・アーカイヴ」を運営する。共著に神山彰編『商業演劇の光芒』(森話社、2014年)、遠藤不比人編『日本表象の地政学』(彩流社、2014年)、論文に「(小声で言ってみる)アメリカの新しい音楽劇について」(『文学』第15巻第2号[2014年3月・4月])など。

【問い合わせ(担当:川口)】 ●携帯 090-1016-7092 ●専用メールアドレス kindaigikyoku@yahoo.co.jp

文化庁委託事業「平成27年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」

主催 ◆文化庁／一般社団法人日本演出者協会

企画制作 ◆一般社団法人日本演出者協会

